



理念

思いやりのある やさしい誠実な医療を 提供します

基本方針 -

- わかりやすい説明による安心・安全な医療を提供します
- 2. 最新の知識と技術による質の高い医療を提供します
- 3. 地域医療機関との連携を強化し、地域社会の発展に貢献します
- 4. 高度な専門性をもつ医療人の育成に努めます
- 5. 医療資源を適正に活用し、健全な経営を実践します

CONTENTS

- DX(デジタルトランスフォーメーション)とは 2~3P
- 4~10P 就任あいさつ
 - 令和5年度 辞令交付式について 11P
 - 12P 第14回 院内QC活動口演発表会
 - 13P 第41回 院内研究発表会
 - 第13回 治験責任医師表彰
 - 15P 防火避難訓練を行いました
 - 令和4年度 院内災害訓練が行われました 16P
 - 第58回 卒業式を終えて
 - 18P 第61回 入学式を終えて
 - 19P 「令和4年度呉医療センター特定行為研修」 修了式の開催について
 - 20P 医療機器安全ニュース
 - 21P うちの部署の接遇キラリさん
 - 22P 連携医療機関紹介 (谷本メディカルクリニック)
 - 23P 我が家のスターたち
 - インターンシップを開催して 寄付について、編集後記

※紙面上の一部写真は撮影のためマスクを外しております。 撮影終了次第、マスクを着用しております。



DX(デジタルトランスフォーメーション)とは

呉医療センター・中国がんセンター 院長 下瀬 省二

人の名前がなかなか出てこない歳になりました。特に芸能人の名前などはほとんど出てきません。そんな時に便利なのがインターネット検索です。すべてが正しい情報とは言えませんが、キーワードをいくつか入れて検索すれば、思い出せないことがわかってホッとします。

新型コロナウイルス感染症の影響により、電子化、デジタル化、DX (デジタルトランスフォーメーション)が急速に広まってきました。とは言っても、スマートフォンをちゃんと使いこなせない世代にとって、「電子化」、「デジタル化」、「DX (デジタルトランスフォーメーション)」という言葉の違いは、よくわからないので検索してみました。

「電子化」とは、紙媒体を電子データへ変換することで、「ペーパーレス化」とも言われています。新幹線の切符やコンサートチケットをQRコード*1で表示したり、領収書や納品書などの紙媒体の情報をPDF化*2したりすることなどが電子化です。これまで紙媒体のFAXでやり取りしていた情報を電子化することで、メールでやり取りすることができるようになりました。一方、電子化したデータを効率的に活用したり、業務改善や効率化につながるデジタルツールを導入したりすることを「デジタル化」と言います。紙媒体を電子化すると、印刷コストやプリンターの維持費などの保管コストを削減できます。紙の資料を保管場所から探し出すのは手作業で時間がかかりますが、デジタル化していれば検索することで容易に探し出せます。

※1「QR コード」は、Quick Response の頭文字からとったもので、素早く読み取る・反応するという意味があります。1994年に現在のデンソー



ウェーブ社が開発した日本発の技術です。(ソフトバンクニュース[いまさら聞けない、QR コードって何?]より) ※ 2 [PDF]は、[Portable Document Format]の略で、データを紙に印刷したときの状態を、そのまま保存することができるファイル形式です。どんな環境のパソコンで開いても、同じように見ることができる、「電子的な紙」

です。(FUJITSU 「PDFってなに?基本から活用まで徹底解説!」より)

「DX(デジタルトランスフォーメーション Digital Transformation)」とは、「進化したデジタル技術を活用し、ビジネスだけでなく人々の生活をより良い状態へ変革する」という概念です。「Digital Transformation」の直訳はデジタル変換ですが、「変革」と定義されています。銀行口座の開設や振込などの取引は、オンライン上で完結できるように変革されました。映画や新幹線のチケットなども、オンラインシステムの導入により手軽に購入できます。

経済産業省は、DXを「企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。」と定義しています。

デジタル化の身近なものとして、「マイナンバーカード」があります。いろいろな特典が付与されたことにより急速に普及が進み、国民の76.4%に当たる96,195,661人が申請しています(令和5年4月2日時点)。マイナンバーカードは、本人を確認するために使用されます。カードリーダーやスマートフォンで読み取って、オンラインシステムに接続します。国税電子申告e-Taxを用いれば、税務署に行かずに税金の申告ができます。また、スマートフォンでマイナポータルへ接続すれば、自分の税金、雇用保険、年金などの情報を容易に入手できます。

医療における DX としては、「オンライン資格確認」の 導入による利活用があります。マイナンバーカードの IC チップ内の電子証明書を用いて、オンライン資格確認等 システムに接続し、健康保険証の確認や電子処方箋に利 用することが進められています(図1)。今年の4月には、 保険医療機関と薬局でオンライン資格確認の導入が原則 義務化されました。当院も受付にカードリーダーを設置 し、マイナンバーカードで保険証の確認ができるように なっています(図2)。

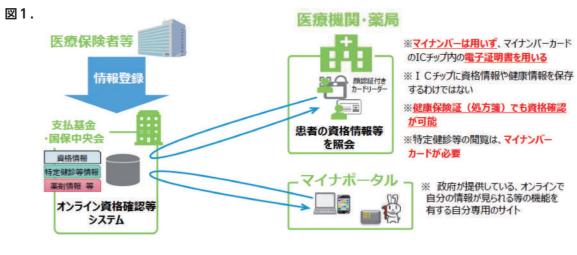


図2. マイナンバーカードの健康保険証利用により、初診に限らず再診時にも、他院での処方も含めた過去の診療・薬剤情報を取得可能・効率的で質の高い医療の提供の推進

(中央社会保険医療協議会総会(第534回) 「医療DX対応について」より引用)

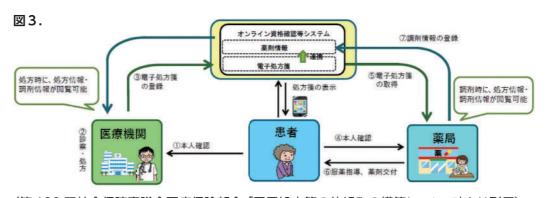
「電子処方箋」は、紙媒体を使わずに薬局で薬を受け取ることができる仕組みです(図3)。オンライン資格確認等システムを利用し、医師が電子処方箋を登録し、薬局が取得した処方情報をもとに薬剤を交付します。患者は病院や薬局でマイナンバーカードによる本人確認が必要です。まだ準備があまり進んでおらず、対応可能な病院や薬局は限られています。現在、医師の電子認証である医師資格証 HPKI (Healthcare Public Key Infrastructure)カードの取得が進められています。

医療 DX として、RPA(Robotic Process Automation)による業務効率化があります。ロボットを活用しパソコンやコンピューターを使用した定型的な作業を自動化します。医療物資の在庫管理や診療報酬明細書の作成、経

理などの定型的な業務に対し、RPAを導入することで業務の一部を自動化でき、ミスや業務量の軽減が期待できます。また、AIを搭載した高度なRPAであれば、機械学習によって、ある程度の分析や判断を伴う業務も遂行できるようになります。AI搭載のWEB問診システムも開発されています。タブレットに症状を入力すれば、AIが病名の候補をいくつか算出します。日々進化しており、診断を補助するものになり得そうです。

当院外来の2階に緒方洪庵の「扶氏医戒之略」を掲示しています。その文中に、診療にあたっては「篤実温厚」の精神をもつべきと記されています(「篤実」とは情が深く親切で誠実なこと、「温厚」とは穏やかで優しく温かみがあること)。DX (デジタルトランスフォーメーション)が進んで、便利な世の中になっても、医療の現場において最

も重要なことは、人 と人とのつながりで す。思いやりをもっ て、やさしく説明し、 誠実に医療を提供す ることが大切です。



(第139回社会保障審議会医療保険部会「電子処方箋の仕組みの構築について」より引用)

副院長 田代 裕尊

この度、高野弘嗣前副院長の後任として拝命致しました。

私は、2015年10月に広島大學消化器外科教室(旧第二外科)より当院に外科医長として就任し2020年4月より臨床研究部長を務めてまいりました。臨床は消化器・移植外科を範囲とし肝臓外科領域を専門にしています。臨床研究部長では、臨床研究の活性化と倫理審査を主な仕事として勤めてまいりました。副院長職では院長を支え病院全体を考える広い視野が要求される重責ですので大変緊張していますが、全力で職務を全うしたいと思います。

さて、2015 年 10 月より当院に勤務し早や7年半経 過しました。その間、西日本豪雨災害、また現在も続く コロナ禍と病院業務継続に多大な影響を受けてきました が、これらの出来事には院長のリーダーシップの下、職 員全員が一致団結し難局を乗り越えてきました。しかし ながら、今後も新たな出来事がいつ何時起こるかわかり ません。また、医療は日進月歩です。外科領域では低侵 襲手術からロボット手術の導入、またゲノム医療、AI 医 療、さらに 2024 年度に向けた働き方改革と医療現場で は新たな展開を見せています。"レジリエント"をご存じ の方は多いと思います。医療は刻々と変化する複雑適応 システムであり、本質的に脆弱であると"レジリエント・ ヘルスケア"(大阪大学出版会)に述べられています。こ のようなシステムにはレジリエント(柔軟性)のある対応 こそがシステムをうまく機能させる源とされています。 幸いこのような柔軟性のあるシステムは当院に構築され ており完璧ではないもののうまく機能しているのではと 思います。このように将来起こるであろう新たな難局に 対応し、またより良い医療を提供するためにこの柔軟性 のある組織の維持改善に努める必要があります。それに は、職員が働きやすい職場環境が必要不可欠と考えます。 より良い職場環境作りと維持には多大な労力を要します が、より働きやすい職場を目指して努力していきたいと 思います。最後に呉医療センターの発展と呉地域の医療 に貢献できるよう努めてまいりますので、何卒皆さまに はご指導の程よろしくお願いいたします。



就任あいさつ

臨床研究部長 讃岐美智義

令和5年4月1日より、臨床研究部長に就任することになりました。この貴重な機会に心より感謝申し上げます。令和元年に広島大学病院から当院に赴任し、医療技術センター部長、麻酔科科長、中央手術部長として、多職種との協業やチーム医療の重要性を学んでまいりました。 当センターにおける研究体制と業績の維持・継承が私の最初の課題であり、創薬や臨床に還元できる研究や基礎研究への臨床視点を重視します。私の研究キャリアは、広島大学大学院で麻酔学を学び、安佐市民病院や県立広島病院を経て、広島大学に講師として戻った後、企業と協力して生体情報モニターや自動麻酔記録システムの開発に携わり、いくつかの特許も取得しました。

臨床研究部長として、優秀な研究員の確保や研究環境

の整備、研究費の調達、研究意欲の高揚を目指します。 共同研究を推進し、多様な視点やアイデアを取り入れます。医学だけでなく、工学、経済学、統計学などの専門 家と連携し、包括的な解決策を提案します。また、企業 や他の研究機関との連携も大切にしていきます。 若手研 究者の育成や支援にも力を入れ、研究チームで協力し合 い、知識や技術を共有し、高いレベルの研究が行われる ことを目指します。リーダーシップを発揮し、研究評価 スコアの向上、創薬や臨床研究への貢献、地域や国際社 会との連携強化に努めます。

臨床研究部長としての使命を果たすべく、全力で取り 組んでまいります。皆様のご支援とご協力をお願い申し 上げます。どうぞよろしくお願いいたします。



就任あいさつ

医療技術研修センター部長 山崎 琢磨

この度、令和5年4月1日より医療技術研修センター部長を拝命致しました。私は平成31年4月に当院整形外科に赴任致し、現在、整形外科科長、リハビリテーション科長、呉人工関節センター長を兼任させていただいております。外科系診療科は勿論のこと、今やあらゆる診療科において医療技術の早期習得が不可欠となっています。当センターは平成22年5月より運用が開始され、今年で開設13年目を迎えます。この間、技術習得に必要な教育器材を拡充し、内視鏡手術シミュレーターなどを用いた内視鏡トレーニング、高度患者シミュレーターを用いたフィジカルアセスメント、急変時の対応に必要な一次心肺蘇生法・AED使用法、モニター付き除細動器の使い方、二次心肺蘇生法、緊急時対応、エコーガイド下中心静脈穿刺法など、さまざまな研修に対応してき

ました。その他、在宅看護ケアトレーニング室では入浴やトイレ介助、喀痰吸引やストーマケアなどの日常生活援助技術の研修も行えます。また、この3年に及ぶコロナ禍において必須となったオンラインによる会議やセミナーに対応すべく、センター内のWiFi環境も整備されております。今後はウィズコロナ下での研修活動の再開が見込まれ、オンライン研修も含めた当センターの役割が増してくることが期待されます。院内のみならず地域のニーズにお応えできる実技研修の場を提供できますよう取り組んで参りたいと存じます。

未だ部長職を担うには若輩者かと存じますが、他の部 長職で重責を担われている先輩の先生方の中で研鑽を積 ませていただき、微力ながら病院運営に貢献させていた だければ幸いです。今後とも宜しくお願い申し上げます。



就任あいさつ

感染対策部長 首藤 毅

令和5年4月1日より感染対策部長に就任致しました。令和4年4月から感染対策室長の任を授かり、下瀬院長直属機関としてコロナ対策を含めた院内感染対策に 邁進してきましたが、この度、感染対策部として再スタートとなりました。

私は平成27年10月に外科医師の大異動に伴い膵臓・胆道外科の専門医として当院に赴任し7年半が経過しました。令和4年3月に前任の感染対策室長繁田先生にそろそろ新型コロナも収束しそうだからと感染対策室長の任を引き継がせていただきましが、その後のコロナウイルスの感染力はすさまじく、5名以上感染の病棟閉鎖を8回経験し、とても忙しい1年間となりました。今後は、コロナ感染の収束に向けていかに病院を通常診療に戻すかの言わば着陸態勢に入ったと考えます。全ての職員の方々のご協力を頂きながら、しっかり話し合って対策を講じていきたいと思います。

昨年10月から感染対策部は感染対策チーム(ICT)(専従看護師:新開美香)と抗菌薬適正使用支援チーム(AST)(専従薬剤師:高田正弘)の両輪体制となりました。AST薬剤師の専従化により抗菌薬治療への介入、助言、相談がいつでもタイムリーに行えるようになりました。今後さらに活動を充実していきたいと思います。

感染対策は地域の医療施設との連携も重要であり、呉地区主要3病院との会議・ラウンドによる相互評価を2~3回/年、連携病院との合同ミーティング4回/年を昨年から外来診療所の先生方と保健所も加えて行っています。感染対策の病診連携を通じて地域医療および地域の皆様方へも貢献していきたい所存であります。

微力ではありますが、皆様のご協力を頂きながら精一 杯務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願い 申し上げます。



地域医療連携部長(消化器内科科長) 河野 博孝

この度、令和5年4月1日より前高野弘嗣科長の後任 として地域医療連携部長(消化器内科科長)に就任いた しました河野博孝と申します、何卒よろしくお願い申し 上げます。

私は 2004 年に呉医療センターに赴任し、19 年目を 迎えております。

私は呉出身で、父も広町で内科医院を開業しておりました。出身地である呉地区の消化器内科疾患(肝臓を中心に)の治療に従事出来たことを光栄に思っております。

18年間お世話になりました当院の他科の医師、看護師、スタッフには感謝を申し上げ、呉市内の病院、開業医、

施設の方々には長きにわたりご高配を承った事をこの場を借りて深く御礼申し上げます。

消化器内科は多くの疾患がありますが、肝臓は私、消化管は内視鏡センター長の桑井寿雄医長、胆膵は山口厚医長を中心として連携をとりながら対応してまいります。

11名の消化器内科医師、内視鏡センタースタッフ、6階B病棟スタッフで、安全・安心な医療を、誠実と親切をもって提供することが大切であると考えております。

微力ながら精一杯努めたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



就任あいさつ

皮膚科科長 石川 哲三

この度令和5年3月1日より皮膚科科長に就任いたしました石川哲三と申します。出身は広島市で平成13年に久留米大学を卒業し、広島大学病院、広島赤十字原爆病院で臨床研修を行った後、広島大学病院麻酔科で麻酔科医として2年間勤務しました。その後広島大学皮膚科に入局し、皮膚科医として尾道総合病院、労災病院、吉田総合病院など広島県内の総合病院で勤務しました。当院に赴任する前の前勤務地は安佐市民病院で4年半程勤務しておりました。呉医療センターは平成19年から2年間の勤務歴があり、この度15年ぶりに戻ってきました。前勤務地の安佐市民病院は昨年新たな場所に移転し新しい建物になったばかりなのでその建物とは比較できませんが、以前私が呉医療センターで働いていた時と比べて現在の建物自体は明らかに古くなっていました。しかし皮膚科で使用する機器(エキシマライトなどの紫外

6

線治療器、エコー機器など)は充実しており、労働環境も 改善しており、また当院の看護師、薬剤師、栄養士など 病院のスタッフの仕事に関する意識も高く、外来診療す る上では環境は整っており、後は自分次第と思われ、身 の引き締まる思いと責任の重大さを感じています。治療 に関してですが、近年、どの診療科でもそうですが皮膚 科疾患に対しても新しい薬物療法(抗体製剤、分子標的 薬)が開発され使えるようになりました。重症のアトピー 性皮膚炎や乾癬、悪性黒色腫など様々な疾患に使われる ようになり治療の幅が広がりつつあります。呉地域の医 療の充実に少しでも貢献できればと考えております。皮 膚科の疾患で気になることがある場合はご相談いただけ れば幸いです。それぞれの患者様に適切な治療を選択し て提供できるよう努めてまいります。今後ともよろしく お願い申し上げます。



就任あいさつ

乳腺外科科長 吉山 知幸

このたび、令和5年4月1日付けで乳腺外科科長に着任いたしました吉山知幸と申します。どうぞよろしくお願いいたします。呉医療センターでの勤務は2回目で、前回は令和元年に1年間乳腺外科医師として診療・研修をさせていただきました。その後JA尾道総合病院で3年間乳腺外科主任部長として診療を行った後、このたび医局(広島大学病院腫瘍外科)の大幅な人事異動により前任の重松科長の後任として参りました。

私は広島育ちですが、生まれは呉市で、2歳ごろまで 呉市で暮らしました。その後、親の転勤により熊本県玉 名市の田んぼが一面に広がる地域に移り、小学1年生ま で自然の中で暮らしました。その後、都会の広島市に戻っ てきましたが、三つ子の魂百までといいましょうか、や はり自然が多いところが好きなことは変わりません。現 在も広島市に住んでいますが、市郊外の、山が近く自然 が多い地域で暮らしています。

医療に関しては、がん治療に携わることを希望し、平成 13 年広島大学医学部を卒業した後、広島大学腫瘍外科に入局しました。当初は胃癌あるいは大腸癌の治療に携わることを考えていましたが、九州がんセンター乳腺科で乳癌の診療・研修をする機会をいただき、そこで乳癌診療の基礎を教わってからは、乳腺を専門とするようになりました。その後、広島大学病院や当院、JA 尾道総合病院で乳腺外科の診療経験を積み重ねて参りました。

これまでの経験を通して大切に思っていることは、一番は患者さんに信頼してもらい、喜んでもらうことです。そのためにはしっかりとした診断技術・手術手技・知識が必要であり、日々研鑚しアップデートもしております。また患者さんの話をよく聞き、コミュニケーションをしっかりととることも心掛けています。次に、チーム医療を大切にしたいと考えています。患者さんを中心として、患者さんに寄り添いながら、多職種で最善の診療を考え患者さんとともに乳腺診療を行います。さらに、最近大切だと思っていることは、主治医が健康でいることです。主治医が健康でないと診療ができなくなり、ひいては患者さんが困ることになります。健康に気をつけてジョギング等で体力づくり、体力の維持をするように心がけています。

呉医療圏の中核病院である呉医療センター・中国がんセンターの乳腺外科は、乳癌を中心とした悪性疾患と良性疾患を含めた乳腺領域の疾患を幅広く担当しています。年間150例以上の原発性乳癌手術を施行しています。当科の使命は呉医療圏の乳癌診療を支えることです。当院にはその責務を果たすに十分な人材と施設が備わっています。きめ細かい診療と共に最善の医療を提供させていただきます。精一杯頑張りますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。





企画課長 田中 光照

この度、令和5年4月1日付けにて岡山医療センターから異動してきました田中と申します。よろしくお願いいたします。

出身は山口県で、現在は広島県東広島市に居住しているため、自宅から病院まで1時間かけて通勤しており、渋滞等により遅刻しないか不安に思って毎日通っています。

広島市安芸区にあった畑賀病院(現在の安芸市民病院)に採用され、今回の異動で7施設目の病院勤務となりますが、これまで同じ病院での勤務はなく、呉医療センターも初めての勤務となりますので、院内を把握するため、右往左往しながらうろついているところです。

今回、自宅へ戻るため部屋の片付けをしていたところ、昔いただいた平成9年8月1日付の国立呉病院更

新築整備第1ステップ完成記念品がでてきました。その後、ステップ2、3、4と工事が続きましたが、あれからかなりの期間が経過しており各所において建物修繕等が必要な状況が確認されております。今後、皆様へご協力いただきながら各種作業を実施していく場面が増えると思いますが、何とぞご理解願います。

微力ではありますが少しでもお役に立てるよう尽力 して参りますので、ご支援・ご指導のほどよろしくお 願いいたします。



就任あいさつ

経営企画室長 西岡 巧

この度、令和5年4月1日付で中国四国グループから 経営企画室長として着任いたしました西岡と申します。 よろしくお願いいたします。

生まれは山口県ですが、両親の転勤や私自身の転勤もあり巡り巡って実家は高知、私自身は広島市に居を構えて17年目を迎えました。前任地同様、呉医療センターへもJRを利用し通勤しておりますが、昨今のコロナ禍の影響により、電車通勤の最大の強みであり、私自身のライフワークでもある「仕事帰りに一寸一杯」をここ数年実践することができず、悶々とした日々を過ごしておりました。

4月3日に呉医療センター経営企画室長の辞令を下瀬

院長から交付いただいた日の夜、仕事を終え病院から呉駅に向かう道には、出勤の際には気がつかなかった雰囲気の良さそうな「お店」が並んでいました。それだけでアフターコロナの私の呉医療ライフは保証されたも同然、と確信をした夜となりました。

さて、呉医療センターは管内でも数少ない医業収支率が黒字の病院であり、経常収支率も右肩上がりで黒字を堅持しております。私が着任したことにより「経営悪くなった」と言われることのないよう、微力ながら精一杯努めて参りますので、ご支援・ご指導のほどよろしくお願いいたします。

就任あいさつ

教育主事 花子 紀子

この度、令和5年4月1日付で浜田医療センター附属 看護学校から異動して参りました花子と申します。どう ぞよろしくお願いいたします。

私は、国立呉病院附属看護学校を卒業し、国立呉病院で看護婦(現在は看護師)として勤務しました。そして、西暦 2000 年問題の頃、ちょうど病院が新しく建て替わるころでもありましたが、看護学校の教官(当時の役職)として転勤生活が始まりました。それから、7回目の異動で呉に戻ることになりました。呉医療センターでの勤務は約四半世紀ぶりとなりますので、まるで浦島太郎のような気持ちです。

3年間のコロナ禍で、学校は急ピッチでオンライン化が進みました。遠隔で講義を受けられることにメリットもあればデメリットもあります。学生から情報収集してデメリットの改善が必要と考えています。また、令和

4年度入学生から第5次カリキュラム改正による新カリキュラムとなりました。地域包括ケアシステムを担う人材育成のもと、地域・在宅看護論として地域で生活するあらゆる人々への焦点化、多職種との連携協働、臨床判断能力の育成が看護基礎教育の大きな柱となりました。地域の力も教育に取り入れなければなりません。何をどのようにどのような方法で教授するかを常に問われているように感じ、看護基礎教育に携わる者としての責任の重さを実感しています。時期を同じくして、養成所の運営に関する検討がなされ毎年度評価の提出が求められています。

微力ではございますが皆様と協力し、様々な課題に取り組みたいと思います。母校で教育に携わらせていただけることに感謝し、精一杯努めて参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。



就任あいさつ

副看護部長 平畠 真希

この度、令和5年4月1日より関門医療センターより 異動して参りました、平畠真希と申します。よろしくお 願いいたします。

私は、10年前の約10年間、呉医療センターでお世話になっていました。その後、山口宇部医療センター、賀茂精神医療センター、関門医療センターを経て、今回2回目の勤務になります。以前は呉に住んでおり、呉医療センターまで2kmを徒歩で通勤していましたが、この度は、片道50kmの距離を東広島・呉自動車道で通勤しています。関門医療センターでは週末しか娘たち(猫)に会えず、少し寂しい思いをしていましたが、今は毎日一緒に生活できるので通勤が苦になりません。

呉医療センターは多くの患者さんが入院や通院をしています。患者さんが安心して治療にのぞめるように、患者さんや御家族に寄り添った看護が提供できる看護師を育てていきたいと思います。そして、呉医療センターでは多くの職種の方が勤務されています。他職種の方々と連携して、よりよい看護を提供していきたいと思います。

一日も早く仕事に慣れ、呉医療センターの一員として がんばっていきます。微力ではありますが、ご支援ご指 導のほどよろしくお願いいたします。



診療放射線技師長 二見 智康

令和5年4月1日より広島西医療センターから異動 してまいりました二見と申します。どうぞよろしくお 願い致します。

呉医療センターでの勤務は 12年ぶり 2回目となります、前回は平成 21年1月から2年2カ月でした、MRI 担当主任として診療に携わり機器更新やタイ王国ラジャビチ病院学会での発表など貴重な経験をさせて頂きました、異動となる直前の平成23年3月には東日本大震災があり被災地支援を終えて帰ってこられた当院 DMAT 隊員の皆さんの放射線スクリーニング検査をさせて頂いたことが思い出されます。

今般 医師の働き方改革を進めるための多職種の医療従事者へのタスクシフト・シェアが推進され診療放射線技師においても講習や実技研修がおこなわれているところです、業務移管の際には関係各部門の協力を得ながら安全かつ適切な体制を構築していけばと思います。なにより当院の高度医療を支える一部門として患者様にやさしい質の高い医療技術の提供が出来る様、人材育成や大型医療機器の更新についても努力してまいりますので、ご指導ご支援の程よろしくお願いいたします。

就任あいさつ

理学療法士長 日浦 雅則

この度、リハビリテーション科理学療法士長に就任いたしました日浦雅則と申します。どうぞよろしくお願いします。出身は広島県広島市です。国立病院機構に入職後は関門医療センター、岡山医療センター、米子医療センター、岩国医療センターと異動し、呉医療センターが5施設目で、出身県である広島での勤務は初めてとなります。呉医療センターは高度急性期医療を提供する中核的な大規模病院であり、非常に身の引き締まる思いであると同時に当院職員の一員として勤務することを楽しみにしております。

近年、リハビリテーションはチーム医療であることが 前提とされ、多職種連携の重要性が特に高まっている部 門であり、この多職種連携の充実がリハビリテーション の運営課題となっています。皆様のご理解とご協力を賜 りながら、リハビリテーション科スタッフと共に質の高 いリハビリテーション医療を提供したいと考えております。

微力ながら当院のチーム医療そして呉医療圏の地域医療に貢献したいと存じますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



令和5年度辞令交付式について

管理課庶務係長 中山 裕文

4月3日(月)に4月1日付で採用、転入、昇任された職員に対して「令和5年度辞令交付式」が執り行われました。新型コロナウイルスの影響で集合形式での辞令交付式は長らく中止されており、職場単位での辞令交付が通常となっておりましたが、3年ぶりに集合形式で開催され、総勢178名が出席されました。

多数の参加者がいたため、昇任・転入・採用の職員で時間と場所を分けて開催しましたが、辞令交付式が全て終了するのに約2時間かかりました。

各会場ではじめに下瀬院長より各職種一人ひとりに辞令が手渡され、その後に下瀬院長よりそれぞれの職場での活躍へ向けて激励の言葉が贈られました。

今回の辞令交付式の参加者は、様々な思いを胸に 各職場で業務に邁進しておりますが、呉医療セン ターは今年度も「思いやりのある、やさしい誠実な 医療」を病院理念として患者さんへ高度な医療を提 供してまいります。



第14回 院内QC活動口演発表会

院内QC活動運営委員会 委員長 統括診療部長 大庭 信二



令和5年2月1日に院内QC活動口演発表会を開催いたしました。昨年度に引き続き、感染防止対策を十分行った上で口演発表会を行い、64名の方にご参加いただきました。

今年度の院内 QC 活動には全 10 題が登録され、令和 4年 11 月 28 日から令和 4年 12 月 9日にかけて、全職員を対象としたポスター掲示による事前投票が行われました。

発表会当日は、上記投票により決定した上位6題の口演発表が行われ、結果は次のとおりとなりました。

受賞区分	タイトル	部署
最優秀賞	MTS(待たせない)プロジェクト続報! ~中央処置室での取り組み 採血編~	外来
優秀賞	斬り捨てGO 免!! ~抗がん剤注射の医療費削減とオーダー・調剤負担軽減~	薬剤部
3 位	スマイル大作戦 入退院支援センターってなんかいいね!	地域医療連携室
特別賞	ホルマリン作業環境改善の取り組み ~ISO15189取得を見据えて~	病理診断科
特別賞	いつでも どこでも 誰でも 転倒する! 転落する! ~退院前の転倒転落に注目をして~	医療安全管理室
特別賞	リハビリテーション科の感染対策 〜病棟担当制の導入〜	リハビリテーション科

また、令和4年度国立病院機構QC活動奨励表彰に推薦しました3題のうち1題がグループ優秀賞を受賞したため、上記口演発表会の開票中に授賞式を執り行いました。

本年度は国立病院機構の職員を対象とした Web 投票で選出された 12 題から特別審査員による審査・投票によって受賞が決定されました。

受賞区分	タイトル	部署
グループ優秀賞	呉2021+1自分を守れ!ガウンがあついコロナ攻防戦	Team Cobit。 (10A 病棟)



院内 QC 活動口演発表会



□演発表会の会場の様子



国立病院機構 QC 活動奨励表彰

第41回 院内研究発表会

副院長 田代 裕尊

本年度の院内研究発表会は、令和5年3月4日土曜日に開催されました。下瀬院長による開会挨拶に続き午前9時より発表が始まり、合計20演題の報告がありました。内訳は、症例発表4演題、臨床研究9演題、業務改善事例2演題、アイデア1演題、その他3演題、特別講演1演題でした。これらの分類は演題申し込み時の申請に基づいています。

症例発表 4 演題は医師 (病理診断科)、看護師 (7 B 病棟)、作業療法士 (リハビリテーション科)、言語聴覚士 (リハビリテーション科) でした。臨床研究 9 演題のうち 3 題は医師 (呼吸器外科、外科、消化器内科)、1 題は看護師 (7 A 病棟)、1 題は作業療法主任 (リハビリテーション科)、3 題は管理栄養士 (栄養管理室)、1 題は研究員 (臨床研究部)でした。業務改善事例 2 演題のうち 1 題は契約係(企画課)、1 題は助産師 (4 A 病棟) でした。アイデア 1 演題は視能訓練士(眼科)でした。その他 3 演題は医療メディエーター (3 A 病棟)、薬剤師 (薬剤部)、臨床検査技師 (病理診断科)でした。

特別講演は脳神経内科の倉重 毅志先生による「路傍の石はどう拾うのか~臨床で研究するということ~」の講演でした。

筆頭発表者の職種別頻度は、医師5人、薬剤師1人、助産師1人、看護師2人、医療メディエーター1人、管理栄養士3人、視能訓練士1人、言語聴覚士1人、作業療法士

臨床検査技能

作業療法士

2人、臨床検査技師1 人、契約係1人、研究 員1人でした(図1)。 今回の発表時間は7 分、討論3分で行いま した。

座長は、医師3人、 看護師1人、管理栄養 士1人が担当しました。 座長未経験者には座長 心得を用意しました。 参加者は医師19人、 看護師 19 人、薬剤科 6名、臨床検査科2人、 病理診断科1人栄養管 理室7人、眼科1人、 リハビリテーション科 9人、ME管理室5人、 看護学校2人、事務部 1人、企画課1人、技 術研修センター1人、 臨床研究部4人の合計 78人でした(図2)

総評として、終始和

やかな雰囲気の中で活発な討論が交わされました(図3)。 今年度は例年以上にさまざまな職種の方が発表されました。発表内容は各職種とも臨床研究や業務改善に進めようと感じられる発表が多くありました。普段見ることができない職種間での討論を行う事ができ、今後当センターの臨床研究がより精度の高いものになると期待されます。またこれらの成果を展開し、積極的に論文化していくことも重要だと考えられます。 後日の幹部会議にて優秀発表4演題が決まり、管理診療

後日の幹部会議にて優秀発表4演題が決まり、管理診療 会議にて表彰を行いました(図4)。

優秀発表演題は以下の通りです。

- 1) 母乳回診カルテ導入が退院時母乳栄養率へ与える効果 について
- 〇山下成美、東條綾、齊藤さやか、福田裕美、井上久子、 橋本郁美、森下早苗 4A病棟
- 2) 嚥下調整食の提供患者における栄養管理状況と栄養学 的課題の分析
- ○国正昇馬、石田みどり、保手濱由基、中尾美惠、兼任美 栄養管理室
- 3) 感染性廃棄物の廃棄費用削減について
- 〇金子悠太 ¹⁾、新開美香 ²⁾、繁田正信 ²⁾、今村一仁 ¹⁾、 福本典晃 ¹⁾、上藤 大征 ¹⁾ 企画課 ¹⁾、感染対策委員会 ²⁾
- 4) Antimicrobial Stewardship Team (AST) の薬剤師 専従化とメロペネム・ドリペネム許可制導入の評価
- 〇高田正弘^{1) 2)}、前田龍人^{1) 2)}、吉野弘絵¹⁾、増木麻未¹⁾、 新開美香¹⁾、三登峰代¹⁾、植村享裕¹⁾、嶋田徳光¹⁾、 大森慶太郎³⁾、首藤毅¹⁾、藤田秀樹²⁾ 感染対策室 ICT/AST¹⁾、薬剤部²⁾、広島大学病院感染症科³⁾









図 3 会場光景



図4 表彰光景

契約係 研究員

第13回 治験責任医師表彰

治験主任 倉田 真志



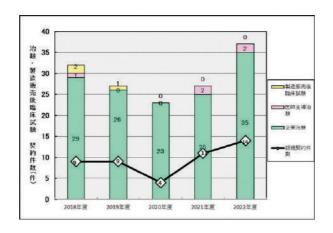
2023 年 3 月の管理診療会議にて 2022 年度治 験責任医師表彰が行われました。治験責任医師表彰 は 2010 年度から開始されており、1 年間で最も治 験に貢献された治験責任医師を表彰しております。

2022 年度は複数の治験契約と年間最多症例登録を達成されました乳腺外科の重松先生の受賞となりました。(この日は年度末で重松先生は転勤準備の為、代理で小林先生に授賞式へご参加いただきました。)重松先生におかれましては治験のみならず臨床研究におかれましても JCOG 試験を中心メンバーとして企画するなど、研究を通しての医学の発展に情熱をもって臨まれていることが一緒に働いていて伝わってきました。今年度より呉を離れられ、広島大学でのご勤務となります。治験管理室一同、重松先生のますますのご活躍をお祈り申し上げます。

さて、当院では昨年度は 11 診療科で 37 試験(企業主導治験: 35 試験、医師主導治験: 2 試験)とここ5年で最高の契約件数となりました。(添付のグラフをご参照ください。) COVID-19 の影響などにより近年治験の契約状況は右肩下がりとなって

おりましたが、一昨年度より契約件数は増加傾向に あり活気を取り戻しつつあります。今年度も引き続 き多くの試験を受託し、先生・患者様にひとつでも 多くの治療の選択肢を提供できればと思っておりま す。

治験は治験管理室だけでは実施できず、先生方・ 各部門のスタッフの皆様のご協力の上で成り立って おります。この場を借りて感謝を申し上げますと共 に、引き続き治験管理室の円滑な運営にご協力をお 願いいたします。







防火避難訓練を行いました

企画課 契約係 小林 湧弥



令和5年2月16日(木)に当院にて避難訓練を行いました。この訓練の目的は、夜間の火災を想定した、通報・避難・初期消火を重点とした訓練となっています。

当日は火災報知器の発報から、警備員及び各当直 者が出火場所に駆け付け初期消火及び患者の避難誘 導、消防署への通報等を行いました。

いざ、決まった流れで避難訓練を行いましたが、 各当直者と警備員の連絡及び連携が重要であること を実感しました。

また、実際の夜間の火災ではスタッフの数が少ない上、入院患者の混乱等から相当の困難が想定され

ます。そんな中で混乱を最小限にとどめ、スムーズに状況を把握し患者を避難させ、初期消火活動及び消防署への通報を行うためには、定期的な訓練及び日頃からの意識が重要であると認識させられた一日でした。

訓練終了後に警備員から訓練参加者へ、消火器の 使用方法を指導してもらいました。

日頃、消火器を使用する機会がないため、とても 良い経験となりました。









令和4年度 院内災害訓練が行われました

救命救急センター 部長 岩﨑 泰昌



令和4年度呉医療センター災害訓練が、令和5年3月9日(木)午後3時より7時まで行われました。この訓練は呉地域において、地震や列車事故などの大規模災害が発生し、多数の傷病者が出た場合に、災害拠点病院である当院が、災害傷病者や院内患者に対して、適切な対応を行うことができることを目的として行われました。昨年と一昨年はコロナ禍のため実施することができなかったので、3年ぶりの開催となりました。

今回の災害想定はマグニチュード6の南海トラフ 地震が発生し、呉市では震度5を記録、当院の建物 の被害は無く、ライフラインは正常で、電子カルテ は通常使用可能との想定で行いました。

訓練は院内の1階事務スペースに暫定対策本部を設置して、1階フロアにトリアージエリア、赤エリア、黄エリア、緑エリアを設置し、人(災害傷病者と医療者、患者)、物(医療資器材など)、情報(様々な情報を暫定対策本部に集約して、指揮命令系統を確立)の流れを確認しながら行われました。また、呉市消防局にご協力いただいて、人形の模擬患者にトリアージタグを装着し、トリアージの後に重症度に応じて、各エリアに搬入して、初期治療を行ったのちに、病棟、手術室、ICU などに移動するシミュ

レーションも実施しました。院長以下幹部職員をは じめとして、医師、看護師の他、事務部門や薬剤師、 臨床工学技士などのコメディカルも参加して、総合 的な訓練を実施することができました。

訓練後の振り返りでは、「電子カルテ上傷病者の 生年月日がわからなければ年齢が表示されないが、 災害時には生年月日が不明であることもしばしば生 じることが予想され、どう対応すべきか」や「黄エリ ア、緑エリアは、生理検査室やロビーなど通常では 診療スペースではない所を使用しているため、医療 資器材をそれぞれのスペースに配置したが、まと まって入っているので個々の物品がどこにあるか が、一見してわからない」など、実際の訓練を行わ ないと気付かない多くの問題点を抽出することがで きました。

南海トラフ地震(M 8から M 9クラス)は、今後30年以内に発生する確率が70から80%(気象庁)と言われています。南海トラフ地震に限りませんが、呉で多数傷病者が発生するような災害は、明日にでも起こるかもしれません。呉地域の災害拠点病院として、いざという時に適切な対応ができるよう今後も訓練などを積み重ねていく必要を感じました。



時間外出入口付近の廊下に設置した トリアージエリア



正面玄関ロビーに設置した緑エリア



救急外来に設置した赤エリア



1階事務室に設置した暫定対策本部

16



生理検査室に設置した黄エリア

第58回卒業式を終えて

呉医療センター附属呉看護学校 教員 天野 志保



令和5年3月2日、第58回卒業式が挙行され79名が卒業しました。今回は、保護者と病院職員の皆様にご臨席頂きました。当校の学校教育に、ご理解とご協力を頂いた関係者の皆様に深く感謝いたします。

また、文部科学省から「卒業式におけるマスクの 取扱いに関する基本的な考え方について」の通知の 通り、卒業生は、式典中はマスクを着用せずに出席 しました。保護者の皆様に、白衣姿で晴れ舞台に立 つご子息・ご息女の姿を見て頂くことができ、感慨 深い式典となりました。

58回生は、入学時からオンライン授業が中心となる等、授業方法が変更されながらも無事に単位修



得ができました。その中でも臨地実習は、ほとんどが実践活動外学習(学内実習)に変更となり、臨地で患者さんと関わり関係性を築いていく過程や、五感を活用して看護を行う経験の機会が少なくなってしまいました。そのような中での、臨地実習では、様々な看護の実践場面を通して、個別性を持った看護の提供の重要性について学ぶことができました。そして、卒業前には一人一人が、自分の目指す看護を語ることができるように成長しました。

これからも、自分たちが理想とする看護師像を目指し、経験を積み上げながら、それぞれの場で活躍されることを期待しています。



答辞



集合写真

第61回入学式を終えて

呉医療センター附属呉看護学校 教員 奥田 真由美



令和5年4月7日、暖かな春の訪れとともに34名の新入生を迎えました。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、看護学校での行事は中止もしくは縮小されてきましたが、昨年から参加者は限られているものの徐々に通常に戻ってきました。今年は3年ぶりに在校生も全員式典に参加することができ、保護者には2名まで出席していただき、ほぼ新型コロナウイルスが流行する前の式典を挙行することができました。新入生の晴れ姿を保護者の皆様、病院職員の方々に見守っていただき安堵しています。また、在校生は新入生の姿に先輩としての自覚を抱くこともできたのではないかと思います。

新入生は式典中マスクを外し、やや緊張した面持 ちでした。呼名時の返事は、これから始まる看護学 生としての新生活に期待と不安を抱いているようにも聞こえました。学校長は「患者さんに寄り添えるよう、豊かな人間性と深い知識を持つ看護師となってほしい」と式辞を述べられました。新入生は様々な思いを抱き、看護学校に入学されたと思います。これからの学校生活において、時には立ち止まることもあるかもしれません。その時は、入学式で新たにした決意を思い出し、仲間と共に支え合い、乗り越えてもらいたいです。私たち教職員は、これから授業や実習などを通して、新入生が知識や技術を高め、看護への思いを育み、3年後には患者さんに寄り添える優しい看護師として看護学校を巣立つことができるよう、精一杯支援をしていきたいと思います。









「令和4年度呉医療センター特定行為研修」修了式の開催について

管理課 庶務係長 中山 裕文

当院では3月28日(火)に「令和4年度呉医療センター特定行為研修」修了式を行いました。(下記写真参照)

当日は院長や副院長、特定行為研修の責任者である救命救急センター部長をはじめとした関係者及び 受講生2名で執り行われました。

当院看護師1名と岩国医療センター看護師1名の 計2名が令和4年6月より研修を開始し、無事修了 することができました。

令和4年度に当院で行った特定行為研修は「救急領域パッケージ」というもので、複数の特定行為をパッケージングした研修となります。「救急領域パッケージ」は人工呼吸器や動脈血液ガス分析、脱水症状に対する輸液投与や抗けいれん剤の臨時投与等に関する特定行為の研修となります。

研修は e-learning や対面での講義、実際の臨床 現場での実習等、約1年近くかけて行われました。 この度修了した2名の看護師には特定行為研修で学 んだことを実践し、現場で活躍していただければと 思います。

当院では今年度も特定行為研修を開講する予定と しており、今後も臨床現場で活躍できる特定行為研 修の修了者を増やしていきます。



修了式の様子



集合写真



医療機器安全ニュース

現代の医療では生命維持や治療に医療機器は不可欠です。これらの医療機器も操作や管理を誤れば重大な事故を招 き、死に至るケースさえあります。

ME 管理室では、医療事故防止、安全対策の向上を目的とした医療機器安全ニュースを年に2回発刊しています。

第24回「AED(自動体外式除細動器)について」

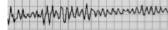
自動体外式除細動器(AED)は、重篤な不整脈を起こしている 心臓に電気ショックを加えて正常な調律に戻す役割を担う機器 で、市中にも広く設置されています。

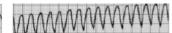
一般的に除細動器と呼称される機器は、その取扱いに専門 の知識を要するため医師による操作が必要とされていますが、 AED は心電図を自動解析して電気ショックが必要な場合にのみ 電気ショックを加える機能を搭載しているため、誰でも使用す ることができます。

こうした目的のもとに製造された AED は、電源を入れるとそ の後の操作を音声ガイドで誘導する機能も搭載しており、特別 な知識・操作を必要としません。しかしながら、いざ AED が 必要な場面に遭遇すると判断力が鈍るケースも少なくないため、 少しでも冷静な判断ができるよう、知っておくと役に立つポイ ントを本稿で紹介したいと思います。

● AED は、いわゆる「心臓のけいれん」である「心室細動」と「心 室頻拍」に対してのみ、電気ショックを行います(図1)。

電気ショックが行われる心電図





心室細動

心室頻拍

電気ショックが行われない心電図

心静止

無脈性電気活動

- 図1 電気ショックが行われる心電図と行われない心電図
- AED が電気ショック不要という判定をしたからといって、心 臓が正常に血液を送り出せている事にはなりません。また、 電気ショックを行ったからといってすぐに心臓が正常な動き に戻るとは限りません。胸骨圧迫(心臓マッサージ)は外力に よって心臓から血液を送り出す重要な役目を果たしています ので、AED による電気ショックの有無に関わらず、脳や他臓 器への血流を維持するための胸骨圧迫を続けて、医師の到着 を待ちます。

呉医療センターでは PHILIPS 社製 AED (FR2+ と FR3)を設 置しています。

〈使用方法〉

- ① 電源を入れる(電源を入れると音声ガイドによる指示が始 まる)。
- ② 電極パッドを適切な位置に貼り付ける(図 2)。

装着前の注意点

- ・しっかりと皮膚に密着させる。
- ・皮膚が濡れている場合、水分を十分に拭き取る。
- ・貼り薬は剥がして薬剤を拭き取る。

・ペースメーカーが植え込まれている場合、真上は避け、 2~3cm離して貼る。

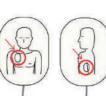






図2 電極パッド貼付位置

- ③ 電極パッドのコネクタをしっかりと本体(図3)に接続す る。
- ④ 自動的に心電図解析が開始される(音声ガイドにより体か ら離れるよう促される)。
- ⑤ ショックが必要とアナウンスされた場合、体に触れてい る人がいないか周囲・自身の安全を確認した後、ショック ボタンを押す。
- ⑥ すぐに胸骨圧迫を再開する。



図3 左:FR2+右:FR3

〈小児に使用する場合〉

当院保有の AED では FR3 にのみ小児 モードがあります。

- ・小児用キー挿入口に小児用キーを差し 込む(図4)と小児モードに切り替わり
- ・小児モードでは除細動エネルギーが自 動的に低減されます。



図4 小児用キー

電極パッドは成人/小児共通であり、同じ大きさのパッドを 使用します。

・電極パッド同士がくっつかな いよう、胸の真ん中と背中に 貼り付けます(図5)。

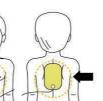


図5 電極パッド貼付位置(小児)

20

くちの部署の





看護部 手術室 看護師 藤元 翔輝さん

入職して1年が経ちました。手術室では、全身麻酔に より患者さんは自分の思いや言葉を口に出すことはで きません。手術を受ける決意をされた患者さんの意思 決定を尊重し、支えるために安心で安全な手術看護を 心がけています。医師や臨床工学技士等の他職種と 連携しながら患者さんに適切な治療と看護が提供でき るよう日々の関わりを大切にしていきたいです。

和井元 前手術室看護師長より

藤元くんは患者さんだけでなく、一緒に働く仲間に対しても 常に誠実に対応されています。少し繊細な所がありますが、 その分患者さんや仲間に対しての優しさがあります。夜勤対 応や緊急対応も行うようになり、これからの成長がとても楽





看護部 11階相談支援室 教育担当看護師長 池田 知子さん

「元気が一番」をモットーに日々、接する人には自ら の挨拶と口角をあげた笑顔を忘れないようにしてい ます。私の元気が少しでも相手の方に届き、相手の 方が元気になっていただけたらと思っています。

神田 看護部長より

教育担当看護師長として、院内の看護教育全般を副看護部長 さんと連携を取り、そして現場の看護師長さん、副看護師長 さん達と情報交換しながら行ってくれています。新採用看護 師を中心に目くばりをしてくれ声をかけ支援してくれるとて も頼りになる看護師長さんです。





ME 管理室 臨床工学技士 河藤 佳乃さん

ME 管理室では、職員の皆様が安全に機器を使用で きるよう保守管理を行っています。機器の操作方法 や、こんな機器を設置してほしい等、どんな些細な ことでも気軽にお問合せいただければ、力になれる よう一生懸命頑張ります。

多賀谷 臨床工学技士長より

河藤さんは、どんなことにも一生懸命取り組み、同僚からの 信頼も厚いスタッフです。また、高気圧酸素治療室や透析室 では、患者様の不安を取り除けるよう心を込めて丁寧に接遇 できるすばらしい存在です。





経営企画室 経営企画係 成澤 佳永さん

経営企画室では毎月の診療状況のデータ収集・分析のほ か、各部署のヒアリングの実施や年度計画の作成をしてい ます。診療報酬に算定誤りがないかの確認や病床利用率 の算出を行うなど、病院ならではの業務をさせていただい ていると感じています。今後は病院業務への理解を深める とともに、より分かりやすい資料作りを行っていきたいで

西岡 経営企画室長より

21

成澤さんは令和4年に採用され、現在2年目の事務職員です。 2年目とは思えないような正確かつ丁寧な仕事ぶりで、安心し て業務を任せることができます。それだけではなく職員への接 遇も丁寧で、コミュニケーション能力もバッチリです。今年は新 たに後輩もできました。是非その仕事ぶりとコミュニケーショ ン能力で、後輩を引っ張っていってほしいと願っています。

連携医療機関紹介

谷本メディカルクリニック

院長 谷本 享生



谷本メディカルクリニック院長の谷本享生(たにもとこうせい)です。私は高校卒業まで実家のある呉市で過ごし、大学以降は関東で過ごしてまいりました。平成4年に順天堂大学医学部を卒業後、同大学の附属病院で循環器内科医として研鑽を積み、平成23年に故郷である呉に戻り、呉共済病院の循環器内科にお世話になりました。平成24年10月から当クリニックを開業しております。

開業当初は、循環器疾患を中心とする内科領域に関して、外来診療をメインに診療を行っておりました。在宅診療に関しては、大学附属病院勤務の時期に知人クリニックでの診療経験がございましたので、クリニック開院時より外来診療の合間に往診や訪問診療を行っておりました。始めは外来通院中の患者さまからの求めで往診することが主でしたが、定期通院が困難となられた患者さまの在宅診療、いわゆる訪問診療を行うようになり、徐々に訪問診療を行う患者さまの人数が増えてまいりま

した。このため、外来診療の合間のみでは訪問診療を希望される患者さまへの対応が困難となってきたため、訪問診療に当てる時間を徐々に増やすこととなりました。 平成から令和となった頃からの新型コロナウイルスの猛威により、さらに在宅診療を希望される患者さまが多くなり、そのニーズにお応えするため現在のような診療体制となっております。また、当クリニックはスペースが小さいため、新型コロナウイルス感染防止のための3密を回避する目的で外来診療を予約制とさせていただいております。

在宅診療に積極的に取り組み、患者さまに満足のいく療養生活を送っていただけるよう、医療の質の向上に努めております。CVカテーテルやPICCの挿入、胸腹水穿刺ドレナージ等も在宅で施行しております。また、在宅療養生活では多職種連携が重要であるということを日々痛感しており、他の職種の方との連携強化にも注力しております。

呉医療センター・中国がんセンターの皆様には平素より、当院外来患者さまの御高診・御加療に加え、訪問診療を行っている患者さまの病状悪化時に救急対応いただき、大変感謝しております。多くの患者さまにより良い在宅療養生活を送っていただけるよう、外来・訪問診療に励んでまいりたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

診療時間	Л	*	*	*	ź	±		1
						第1・3・5	第2·4	1
9:00~12:30	在笔	外来	在宅	外来	外来	在名	- 20	
14:00~18:00	在宅	在宅	在宅	体	在宅	体	休	



医療法人社団 生康会

谷本メディカルクリニック

〒737-0821 広島県呉市三条 4 丁目 4-12 院長 谷本 享生 我が家のるとき

0:0

保護者コメント

園に通い始めた頃はハイハイだったゆっちゃんも、今では元気いっぱい駆け回ってたく さんのお友達ができました。

どんどんおしゃべりが上手になって、先生 やお友達との楽しかった出来事を教えてく れます。

陽気でおてんばなゆっちゃん。毎日たくさ ん笑わせてくれてありがとう。

これからも元気いっぱい、二コ二コ笑顔で 過ごそうね。

羽藤唯月ちゃん

担任保育士のコメント

い作っていこうね!

お散歩に行くよと声をかけると「やったー!」 と両手を広げて喜び、おやつのときは「う わー!おいしそう~」と手を叩いて喜んでく れるゆづきちゃん。

ゆづきちゃんが笑うとみんながつられて笑顔になる、ムードメーカー的存在です。 その持ち前の明るさで、これからもたくさん笑わせてね!そして楽しい思い出をいっぱ

6:0

1歳3ヶ月で入園した八尋。最初は時々涙が出ることもあったようですが、先生やお友達にたくさん可愛がっていただいて、あっという間に慣れてくれました。

初日から給食は毎日完食、おかわりもして身体もみるみる成長! (笑)

走るのも速くなり目が離せない毎日です。

おしゃべりやお歌も上手になり、いつも楽しそうに歌っています。

毎日、園での楽しそうな様子を先生から教 えていただき、お迎えに行くのがとても楽 しみです。

これからも元気いっぱい、楽しい日々をすごしてね。



担任保育士のコメント

天真爛漫なやひろくん!やひろくんのパワーで、いつも元気なたんぽぽ組のお友達も磨きがかかり、さらに活気のあるクラスになります。

最近は歌を歌うのがすごく上手になり、散 歩中に披露してくれるのでお友達にも伝染 していき、皆で楽しく歌いながら散歩して います。

これからもお友達と楽しくすごしていこうね。

インターンシップを開催して

教育担当看護師長 池田 知子



当院は、次年度就職希望の看護学生さんを対象に、 3~6月にかけてインターンシップを開催しています。今年度は9回開催を予定しています。

インターンシップでは、当院をより知っていただくために、「看護の概況」と「看護部の教育体制」についてお話をしています。看護の概況では呉医療センターの歴史や診療科、看護の特徴を説明し、教育体制では、就職後の1年間の看護教育を中心にお話しています。その後、参加者が希望する部署に看護体験に行きます。看護師と実際に患者さんへの看護ケアを一緒に行うことは、看護実習では学ぶことのない経験ができると好評です。看護体験の後は、看護師が質問を受けたり、意見交換したりする時間を設けています。実際の看護経験や、看護観、看護師を

目指したきっかけなどを聞くことで、ますます、看護師になりたいという思いが強くなるようです。参加された方からは「実習とは違い看護師さんの考えを聞きながら病棟の雰囲気を感じることができた。」「学習がしっかりできる体制だと思った。」などの感想がありました。どこの病院でも、どんな場面でも目の前の患者さんへ行う看護の心は変わりませんが、当院は将来、自分が目指す看護師になるために多くの学びができる病院です。これからも、看護師を目指している看護学生さんの将来のお手伝いをさせていただきたいと思っています。

昨年度インターンシップに参加され、今年度看護師として就職された方がおられ、今後もインターンシップが縁を結ぶ一つになるように願っています。



病棟の看護体験の一場面



概要説明の場面



呉医療センターへご寄付をいただきました。

令和5年1月~3月の間に、寄付をいただきました。

◆ご寄付 大埜間 千秋さま(入院時のお礼)、匿名1名(外科研究の発展のため) 医療法人社団 森本医院さま(臨床研究の発展と地域医療の維持)

みなさまからの気持ちのこもったご支援をありがとうございました。

編集後記

令和5年度がスタートしました。新型コロナウイルス感染症は、これまで結核と同等の2類感染症でしたが、5月8日から5類感染症へ移行し、いよいよ本格的なアフターコロナの時代を迎えます。スポーツ観戦における声出し応援や各種イベントの復活など、世の中はコロナ前の日常に戻りつつあります。コミュニケーションの面でも、長らくモニター越しが通常でしたが、今後は対面で話をする機会も増えそうですね。

(広報委員会)